

これまでの取組

- 平成30年7月～12月にかけて3回開催
- 10月～11月にかけて、事例収集及び目標使用年数・劣化状況評価に関するアンケート調査を実施

主な検討内容、意見

○報告書骨子素案について

- *4章以降を追加。目標使用年数や劣化状況評価を4章で示し、巻末に事例を追加。
→流れは意見なし。4章以降の個々の建物に着目するだけでなく、個別施設計画をしっかりと作っていくことを示しておいてほしい。

○アンケート調査項目について

- *アンケート調査を行うにあたり、調査項目(案)を提示。
→更新を判断した時期が、適切な時期であったかは個々の状況により異なると思う。そのため、アンケート調査結果から明確な目標使用年数を示すことは難しいと思うが、目安としての情報は必要だと思う。

○目標使用年数及び劣化状況評価について

- *アンケート調査の結果を整理し、各大学等において要改修と判断した年と実際の改修年のデータ及び一般的に使用される目標使用年数を比較。また、アンケート調査で収集した「改修が必要と判断した年度」「実際の改修年度」「改修後の写真」を使用し、劣化状況評価の参考となる評価を提示。
→現在「平成17年版」の計画更新年数を引用しているが、近日中に「平成30年版ライフサイクルコストについて」が出版予定なので、その値との比較・検討を行った方がよい。
→設備については目視での診断はあまり意味がなく、例えば故障頻度や振動音などを判断材料にする必要があるので、報告書としてはそのあたりを文章で補足するのがよい。

○事例について

- *アンケート調査等により収集した長寿命化に関する計画や施設整備、維持管理の工夫等に関する複数の取組事例を提示。
→劣化状況評価の検査方法の中で、一般的でなく、今後も一般的となる見込みのないものは掲載不要。
→個別施設計画策定におけるコストの平準化等をしている例があれば掲載を検討したほうがよい。